

第382回: 困った国々の困った余話

相変わらずの中華三昧生活だが、最近神保町や早稲田の古書店街で、むかしの中国関連書籍を買うことが増えている。最近出版された中国の政治や経済に関する本も、仕事柄一応目を通すようにしているが、役に立つ本はほとんどない。文章が上手いなあとか、コンパクトにまとめているなあと感心することはあるが、内容の大半はどこかで読んだり聞いたりしたことのあるものばかり。株の世界といっしょで、知りたいのは事実であって、占いや予想や私見に興味はない。

むかし上海に出張したとき、紛失するはずのないホテルの部屋から忽然と姿を消してしまった「中国権力者たちの身上調書(A.ネイサン、B.ギリ)阪急コミュニケーションズ」が古本屋の300円コーナーに並んでいるのを見付け、読み直したが実に面白かった。

2004年に出版されたこの本は、02年の第16回中国共産党大会で成立した胡錦濤総書記を中心とする「第4世代」指導層の権力構造を分析した研究書だ。

本書では当時の最高指導部を「最高権力者三人の『身上調書』」として、①胡錦濤、⑤曾慶紅、③温家宝の順で登場させ、その次に「実務派実力者六人の毀誉褒貶」と題し②呉邦国、⑨羅幹、⑧李長春、④賈慶林、⑥黄菊、⑦呉官正を紹介している。(注:①などの数字は党内序列)

党内序列ではなく著者自ら格付けした実力者ランキング順に寸評を加えているところが面白い。

10数年前に本書を読み、「ここまで断定して大丈夫かな?」と思った記憶があるが、胡錦濤時代が終わり、習近平時代に入ったこの10数年を振り返ると、本書の分析が正しかったことがよく分かる。

本書では、2012年に誕生する第5世代にも踏み込み、有力候補を3人挙げている。01年末から02年初にかけて、当時の中国最高指導部の大勢は、胡錦濤政権の政治局に、だれか一名40歳台の第5世代幹部を送り込み、次世代の指導者層を代表させようと考えていた。以下引用。

- 候補者選定で曾慶紅(注:江沢民側近の実力者)の党中央組織部が重視したのは、党への忠誠心厚い有能な行政官であった。
- 太子党ひとりと庶民出身ひとりが最有力候補に挙げた。福建省長・習近平(49)、厚く敬われている党長老の息子。
- 河南省長・李克強(47)、影が薄れつつある共青団出身。
- 二番手の太子党、薄熙来(53)・遼寧省長も候補に挙げた。50歳を超えていたが、長い目で見て彼はなお、年下二人の競争相手であった。
- 習近平は特権的な出自と美人歌手を妻にしているが、屈託のないきぱきした態度が庶民の人気を博している。

胡錦濤政権が誕生したばかりの、この時期に10年後の習近平・李克強・薄一波の3名をズバリ予想した炯眼には恐れ入る。

結果的には彼ら3人を推すボス連中たちの調整がつかず、3人とも、政治局入りを逃し、5年後、07年の17回大会で習近平、李克強が政治局常務委員に、そして薄熙来が政治局委員に入った。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

本著のなかには、「(習・李のどちらかが政治局入りするのであれば) 習近平より腕力の落ちる李克強が選ばれる方が薄熙来一族の利益にかなう」、「江沢民は習近平、李克強のふたりを気に入っていたが、あてにできるのは薄熙来の忠誠だけだった」、「習近平は 97 年以降、江沢民派への参加を明らかに嫌い、江の《三つの重視》キャンペーンへの煮え切らない反応にそれが出ている」といった個所もあり、人気の習近平、ひ弱な李克強、野心家の薄熙来と、その後の 3 人の運命がズバリ的中している。

もう一つ最近面白かったのが「不破哲三 時代の証言(中央公論社)」。

本書のなかで、文革直前の 1966 年、不破氏が宮本顕治書記長に随行し、中国、ベトナム、北朝鮮を訪問したときのやりとりが興味深い。

北京で実務トップの劉少奇副主席、鄧小平総書記と意見交換したあと、一旦北朝鮮入りし、北京に戻った劉少奇も鄧小平も、外遊や国内出張とかで北京におらず、急遽周恩来首相が登場して協議はやり直しとなった。そんな訳で共同コミュニケは遅れたが、何とか完成した。ところが最後に上海で毛沢東主席が登場し、両党合意文書を「ちゃぶ台返し」で全否定する暴挙に出た。日本共産党がブチ切れたのも無理はない。これが両党断裂の真相とは。最後に一行が広州に到着し、空港に出迎えた人たちに、上海からの同行者が、「毛沢東と決裂した」と耳打ちしたら、歓迎陣はあっという間に雲散霧消したそう。いやはや。

不破さんの回顧録では、それから 2 年後に北朝鮮を訪問したくたりも面白い。当時の日本共産党は中共ともソ共とも断絶状態にあり、中国やソ連経由で朝鮮入りする訳にはいかない。そこで神戸から北朝鮮に向かうポーランド貨物船を探し出し、玄界灘を越えて清津を目指し、金日成主席に会ったという。以下引用。

- 最後に、私たちが経験した事件です。平壤での会談のあと、「くつろいだところで続きを」ということで、「温泉」という郊外の保養地に移り、会談を続けました。合間に庭の藤棚の下での雑談となり、団員の一人がカメラを取りに自分の部屋に戻ったところ、ドアが開かず、こじ開けると兵隊風の男が二人逃げ出していったのです。そのあと部屋の中を調べたら盗聴器が発見されました。留守になるのを見計らってテープの交換をしていたのでしょうか。私たちに對する秘密警察的な対応——「心底見えた」という思いでした。

困った国々の、困った方々たちのエピソードだが、いまでもありそうな話ではある。(了)

文中の見解は全て筆者の個人的意見である。

平成29年5月26日

筆者プロフィール

杉野光男

東洋証券株式会社 主席エコノミスト

一橋大学商学部卒、三菱信託銀行(現三菱 UFJ 信託銀行)入社、上海華東師範大学へ留学

同行北京駐在員、上海駐在員事務所長、理事中国担当部長を経て、2007年より現職

著書 日本の常識は中国の非常識(時事通信社)、中国ビジネス笑劇場(光文社)等

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

2/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第 121 号

日本証券業協会 加入

本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040

ご投資にあたっての注意事項

手数料等およびリスクについて

① 株式の手数料等およびリスクについて

- ・ 国内株式の売買取引には、約定代金に対して最大 1.2420% (税込み)、最低 3,240 円 (税込み) (売却約定代金が 3,240 円未満の場合、約定代金相当額) の手数料をいただきます。国内株式を募集、売出し等により取得いただく場合には、購入対価のみをお支払いいただきます。国内株式は、株価の変動により、元本の損失が生じるおそれがあります。
- ・ 外国株式等の売買取引には、売買金額 (現地における約定代金に現地委託手数料と税金等を買いの場合には加え、売りの場合には差し引いた額) に対して最大 0.8640% (税込み) の国内取次ぎ手数料をいただきます。外国の金融商品市場等における現地手数料や税金等は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。外国株式は、株価の変動および為替相場の変動等により、元本の損失が生じるおそれがあります。

② 債券の手数料等およびリスクについて

- ・ 非上場債券を募集・売出し等により取得いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。債券は、金利水準の変動等により価格が上下し、元本の損失を生じるおそれがあります。外国債券は、金利水準の変動等により価格が上下するほか、カントリーリスク及び為替相場の変動等により元本の損失が生じるおそれがあります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本の損失を生じるおそれがあります。

③ 投資信託の手数料等およびリスクについて

- ・ 投資信託のお取引にあたっては、申込 (一部の投資信託は換金) 手数料をいただきます。投資信託の保有期間中に間接的に信託報酬をご負担いただきます。また、換金時に信託財産留保金を直接ご負担いただく場合があります。投資信託は、個別の投資信託ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なるため、本書面上その金額等をあらかじめ記載することはできません。投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とするため、当該金融商品市場における取引価格の変動や為替の変動等により基準価格が変動し、元本の損失が生じるおそれがあります。

④ 株価指数先物・株価指数オプション取引の手数料等およびリスクについて

- ・ 株価指数先物取引には、約定代金に対し最大 0.0864% (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。
- ・ 株価指数オプション取引には、約定代金、または権利行使で発生する金額に対し最大 4.320% (税込み)、最低 2,700 円 (税込み) の手数料をいただきます。また、所定の委託証拠金が必要となります。株価指数先物・株価指数オプション取引は、対象とする株価指数の変動により、委託証拠金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

ご投資にあたっての留意点

取引や商品ごとに手数料等およびリスクが異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面、上場有価証券等書面、目論見書、等をよくお読みください。

最終ページに重要なお知らせ「注意事項」がありますので必ずお読みください。

3/3



東洋証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長 (金商) 第 121 号
日本証券業協会 加入
本社所在地 〒104-8678 東京都中央区八丁堀 4-7-1 TEL03-5117-1040